



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を
～～～ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ～～～



☆10月の目標

- ☆学習をがんばろう
- ☆みんなと なかよくしよう
- ☆笑顔で あいさつしよう

☆配布物のお知らせ

- 1 学校便り

☆今後の行事計画

10月28日：授業参観日
漢字検定
ハザー

☆六年一組 運動会

村重 太陽

ぼくは徒競走で二組の転入生と同じグループだったので、とても不安でした。その子はリレーの選手だったので、きつと足が速いだらうと気が気でありませんでした。待っている間もとてもきんちようしてました。高校生の兄がスタートラインに立って「見ているぞ」と言ってきたので、もつと気が重くなりました。走る準備をすると、頭の中が真っ白になりました。ぼくはかたの力をぬき、落ちつこうとしました。その時、スタートの笛が鳴り、大きな一歩をふみ出しました。自分でも説明出来ないような気持ちで、最初の十メートルを走りました。自分が負けていないか、ちらちら横を見ていました。すると、その子も僕のことを同じように見ていました。ぼくが前にいることを確認すると、少し気が楽になりました。最後の二十メートルを、ぼくは思いつき走りしました。走りきると気持ちすつきりして、一位だったので少し興奮していました。運動会で一度も負けたことがありません。そしてずっと兄と同じチームにいます。来年も兄と同じチームと一緒に優勝したいです。



☆六年一組 運動会

鈴木 涼花

私は六年生の赤組のリレー選手に選ばれました。選ばれたときは「やったー!」と思ったのですが、後からじっくり考えてみるといやな予感がしました。なぜかというところ、私は長距離が走れないからです。しかし私は選ばれたので、走るしかないと思いました。私は学校から帰ってきたあとに、近所を走ったりしました。そしてその日は来てしまいました。他のリレー選手たちに「一緒にがんばろうね。」と言ってちよつとリレーの練習をした後、ついに始まってしまいました。私はすつごくドキドキして、落ちつきがなかったと思います。ついに私の番になってしまいました。私は「走りきるぞ」と心に決めて、五年生の男子からバトンをもらって一生けん命走りました。途中までは良かったけれど、やっぱり段々息があがってきて、スピードも落ちてきた時に、だれかが「赤がんばれ!」と応援してくれました。それを聞いて私は「がんばらなくちゃ」と思い、必死に走りました。結果は二位だったけれど、精一杯走れたので、心残りはありません。



☆六年一組 運動会

吉村 泉希

九月二十三日の運動会が私の7回目の運動会でした。毎年、楽しみにしています。私は「おしりでパンパン」が一番心に残りました。私は、縄とびをしながら走りたくなかったです。なぜなら、縄とびをしながら走ったら、つまづいてしまいそうだったから、心配したり緊張したりしました。スタートラインの後ろに立ち、レースが始まるのを待っていたら、ドキドキしはじめて不安いっぱい、汗をかき始めました。スタートの笛が鳴り、縄とびで風船までこげずに走れたし、風船を一回で割ることが出来て、うれしかったです。最後のドリブルをしてゴールに走っている時です。お父さん、お母さんが「最後までがんばったね。」と言ってくれたので、うれしかったです。綱引きも楽しかったです。みんな必死に綱を引き、三回中二回赤組が勝ち、とてもうれしかったです。来年の運動会が楽しみです。



☆五年二組 運動会 村尾美怜

運動会で一番印象に残ったことは、おしりでパンパンです。大変かなと思いましたが、やってみたら思ったより風船がやわらかかったのでやりやすかったです。綱引きは、一回目は勝ちましたが、二回目三回目は負けてさんねんでした。紅白リレーは、白が一位と二位でゴールできてうれしかったです。次の日から火曜日までずっと筋肉痛で一日中家にいました。体育がなくて助かりました。運動会はとても楽しかったです。



☆五年二組 運動会 熊澤匠真

ぼくが運動会で一番楽しかったのは、綱引きとリレーです。なぜかというところ、綱引きはチームでやるからです。ぼくは、個人戦よりチームでやるほうが好きです。綱引きは負けましたが、すごく面白かったです。思いっきり引張るのが楽しくて、負けても好きな競技です。次に好きな競技はリレーです。なぜかというところ、選手になったからです。昨年まで見ていてもすごく面白かったのにその選手になったのでビックリでした。先生からバトンの仕方を教えてもらったり、練習したりして面白かったです。走る時はどきどきしましたが、思いっきり走りまわりました。走り終わった後はすごく疲れましたが最後の発表で赤組が勝ちました。負けたけれど、すごく面白かったです。来年は、またリレーの選手になって勝ちたいです。



☆六年一組 やまなしを讀んで 日置 庵文

ぼくは、「やまなし」を讀んで五月の場面で心に残った所は、『日光の黄金は夢のように水の中に降ってきました。』という表現が心に残りました。プールの中にもぐって、上を見上げた時と同じ状態を思い出したからです。強い日光の日光が、水の中に入った時の様子がとてもよく表現してあります。日光の光は黄金にかがやく、まばゆい位にもいいなあと思います。

十二月の場面で心に残った所は、『天井では、波が青白い火を燃やしたり消したりしている』という表現が心に残りました。ここで表現されている天井は、ぼくから見たら水面のこと、カニの目線から見ている表現がいいなあと思います。波の様子を火でたとえているのがおもしろいと思います。なぜ作者は、題名を「やまなし」にしたのか気がになりました。やまなしの部分の一部で、ほぼカニと川の様子であったのに・・・。



☆六年一組 やまなしを讀んで 近藤 和暉

ぼくは「やまなし」を讀んで、五月の場面のせりふ「クラムボンは笑ったよ。」がすごく心に残りました。クラムボンは何、笑うの？と読者を考えさせるこのフレーズが好きなのは、クラムボンというひびきが好きだからです。何か美しく、ミステリアスな感じはしています。十二月の場面では、「金剛石の粉をはいて入りました。」というところがすごく気に入りました。なぜなら、川の水が全身にしみわたっていきからず。想像してみてください。ダイヤモンドの粉がまわっている風景を。とてもきれいな川を思い浮かべたいと思います。ぼくはきっと、このお話はたいして意味はなく、ただただ川や自然、食物連鎖、音を表した、いちばんシンプルでいちばん川の美しさを伝えてくれる童話だと思います。ただ、一丁だけ疑問があります。なぜ、物語に少ししか出てこないやまなしを題名にしたのだろうか？このことを研究しても面白いかもしれないと思います。

☆六年一組 やまなしを讀んで 吉田 ロイス

この話を讀んでぼくは、とても不思議な気分になりました。ぼくが一番疑問に思ったことは、「クラムボン」とはいつの何者か、です。五月では、クラムボンは笑ったり、殺されたりしています。ぼくは、クラムボンは、鳥に食べられて、かきの兄弟の友達だったと思います。そして、殺されて、死んでも、笑っていると書いてありますが、かきの兄弟は、クラムボンが天国に行ったと思っていると思います。十二月のかきの兄弟は、あわの大きさを競っていました。そして、兄に負けてしまう弟のくやしい気持ちがよく分かります。五月も十二月もかきの親子の姿や川の底の様子、つぶつぶのあわ、黄金の光など、ぼくの頭の中によくイメージがうかびました。そして、やまなしのおいしそうなにおいも感じました。

